2022 年 3 月 23 日

１．FRA-ROMSII の再解析値に関する注意

2014 年までの FRA-ROMSII の再解析値では、親潮第一分枝が観測値および FRA-ROMS と比べて大幅に南下することがしばしば現れることが確認されています。そのため、当面の間、2015 年 12 月 31 日以前の再解析値は、日本海では FRA-ROMSII を、日本海を除く海域では FRA-ROMS のデータを公開いたします（図１）。日本海を除く海域において 2015 年 12 月 31 日以前の FRA-ROMSII データを公開する目途がたちましたら、FRA-ROMSII の HP(https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/)にてお知らせいたします。
皆様には大変ご不便をお掛け致しますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

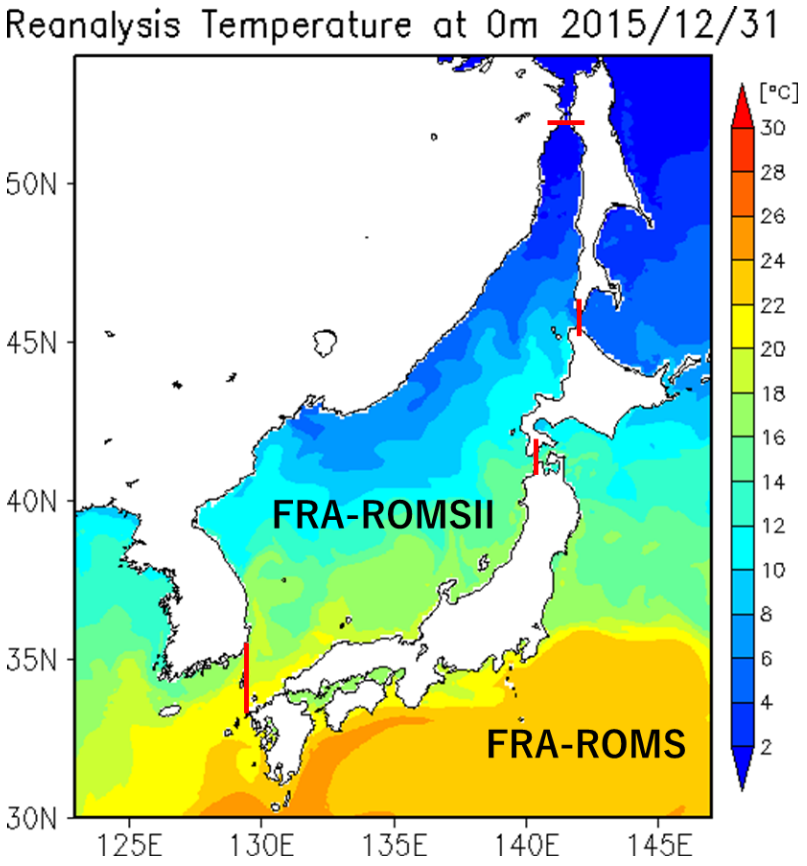

図１：2015 年 12 月 31 日の再解析値水温．FRA-ROMS と FRA-ROMSII のデータの境界を赤線で示す。

２．海況予測システム（FRA-ROMSII）の予測値に関する注意

【冬季から春季における親潮第１分枝の南下について】

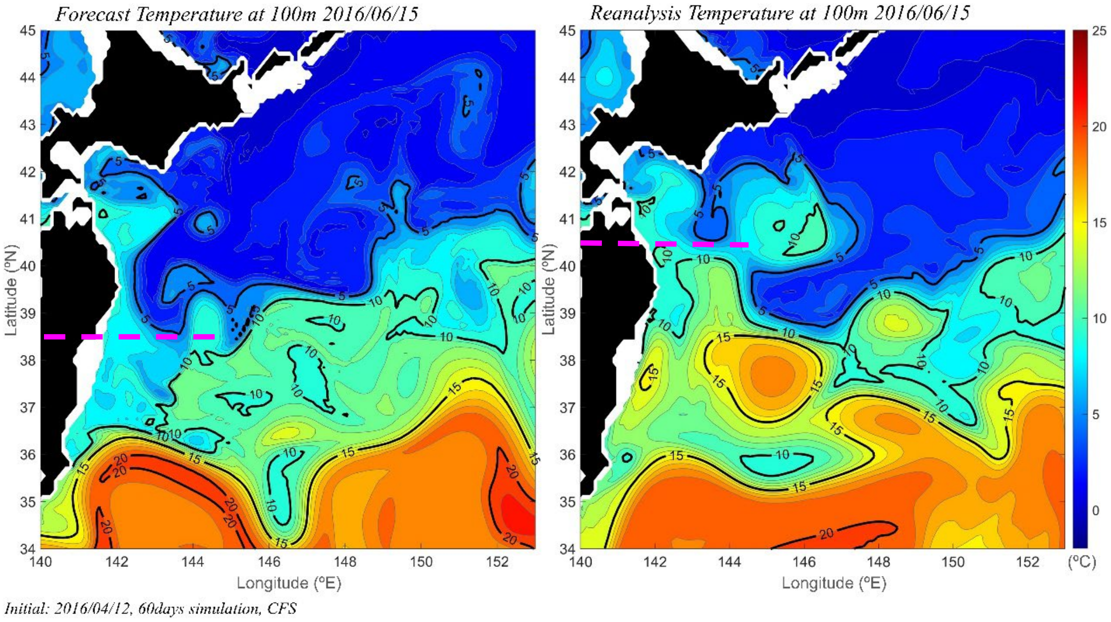

図２：予測値（左パネル)、及び再解析値（右パネル)。親潮第１分枝の南限緯度（100m 水温の 5℃の等値線で定義）を破線で示す。

図２は，2016 年６ 月 15 日の混合水域における 100ｍ水温の予測値（初期値から 60 日後）と再解析値を示しています。再解析値における親潮第１ 分枝の南限緯度は 40.5°N 付近にありますが，予測値における南限緯度は 38.5°N 付近まで及んでいます。現在、運用版の FRA-ROMSII 海況予測システムを用いた冬季～春季の 1.5～2 ヶ月先の予測値には、このような親潮第１ 分枝の過度の南下がしばしば現れることが確認されています。

当海域だけでなくシステム計算領域全体の予測精度を向上させるべく努力していますが，冬季～春季の予測値における親潮第１ 分枝を参照される際は十分にご留意下さい。